

地域に支えられている木上小学校

本日の昼休みに、昨年度の創立150周年記念事業において読み聞かせをしていただいた「童夢」代表様より、大型絵本をはじめ数冊の書籍を本校へ寄贈していただきました。



この寄贈は、150周年事業の中で読み聞かせをしていただいた際の謝金について、「童夢」の皆様で相談され、「ぜひ学校の児童の読書推進のために役立ててほしい」という願いから実現したものです。子どもたちのことを第一に考えてくださる温かいお気持ちに、校長として大変うれしく、心から感謝しているところです。

本年度も、「童夢」の皆様には年間5回程度の読み聞かせを予定していただいています。子どもたちが本に親しみ、想像力を広げていくうえで、大変貴重な機会になると期待しています。

さて、贈呈式では、児童図書委員長が学校代表として本を受け取りました。その際、私から「学校代表としてお礼を言ってください」と伝えたところ、事前の打ち合わせもない中で、「本をいただき、ありがとうございます。みんながたくさん読めるように工夫していきます。」と、堂々とお礼の言葉を述べてくれました。

その姿は、その場で状況を判断し、適切な言葉を自分の中から選び取り、相手にしっかりと伝えるものであり、最高学年としての頼もしさを感じさせるものでした。この姿こそ、本校の児童に付けたい資質である「判断力」「語彙力」にあたるのではないのでしょうか。岩川様も、この言葉に大変感動されていました。

今回の出来事から、地域の皆様に支えられている本校の姿とともに、子どもたちが着実に成長している様子を改めて実感したところです。

これからも、「童夢」の皆様の温かいお気持ちに感謝しながら、ボランティアの方々とのつながりを大切に、子どもたちとともに本校も成長していきたいと考えています。職員の皆様におかれましても、引き続き読書活動の充実に向けた適切な指導をよろしくお願い致します。以下に、いただいた絵本を紹介します。機会を捉えて全校児童へも知らせていきたいものです。

